

ふるさとに学び、よりよい生き方を追究しようとする生徒の育成
—「人・もの・こと」をつなぎ、家庭や地域と連携した道徳科の授業を通して—
下郷町立下郷中学校 教諭 中島 史弥

1 研究の要旨

本校は、人づくりの土台が学校教育であり、道徳教育であるという認識を全職員で共有し、教科指導や生徒指導、学校の諸活動等の土台を道徳教育と関連させ、道徳教育の充実が学校の教育活動全体の活性化に生かされるよう、協働体制で取り組んでいくこととした。

下郷町には、豊富な観光資源、伝統文化等、さらには豊富な人材がある。だが、本校の生徒は地元の下郷町を好きと思っけていても、郷土のよさを深く実感している生徒は少なく、8割以上の生徒が将来は町外に出て暮らしたいと考えている。こうした実態を踏まえると、地域の歴史や文化、自然を学ぶことは、郷土への愛着と誇りを生徒の心に根付かせて行くことにつながる。

そこで、本研究において、「郷土愛」を主軸に道徳教育の充実を行うことで、「地域への帰属感や連帯感」に目覚め、「家族の大切さ」に気付く生徒の育成を目指し、「将来の様々な課題に向き合う際の自信と解決へ向けての力」が身に付くであろうと考え、上記テーマを掲げ全職員協働で研究に取り組んでいる。

2 研究の概要

(1) 自己を見つめ、多面的・多角的に考える授業づくり

道徳教育の要である、特別の教科道徳の授業改善を図った。授業改善の視点として「生徒の心に響く指導の工夫」をもって授業づくりにあたった。

- 生徒の実態から、生徒の課題意識を持たせる「中心発問」の工夫
- 議論が深まるよう、ICTを活用し、自分の考えを他者に伝え、多様な考えに触れる活動の工夫
- 自己を見つめ、実生活の自分と主題を重ねることが出来る振り返りの工夫

(2) 地域資源の活用

- 地域人材をゲストティーチャーとして招いての授業
- 地域教材の開発

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 「つなぐ」を合言葉に「人・もの・こと」をつなぎ、家庭や地域と連携した実践により、郷土に対する認識を深め、郷土の発展のために努めようとする実践意欲と態度を育てる上で効果的であった。

(2) 今後の課題

- 地域との関連や道徳教育を核とするカリキュラムマネジメントについて学校としての重点化を図り、各教科、学校行事と関連させることでさらなる充実を図ること。
- 「人・もの・こと」のつながりをスムーズに展開させるためにも、道徳を中心にした教科横断的な視点に立ち、カリキュラムマネジメントを図っていくことが必要である。